



板橋区中学生海外派遣事業

Itabashi Junior Ambassador Program

(いたばし・ジュニア・アンバサダー・プログラム)

派遣先国との友好関係を深め、板橋区の国際交流を進展させる。また、派遣生徒自身が、外国における異文化交流やホームステイなどを通して、外国の自然・文化及び社会を直接体験し、グローバル化や英語学習への意欲を更に高めるとともに、国際感覚を身につけた、将来の板橋区を担う人材の育成を図ることを目的として、板橋区中学生海外派遣事業を実施した。

1 事業の内容

区立中学校の生徒22名について、8月15日（金）から8月21日（木）までの7日間、英語が第二外国語として普及している多民族国家マレーシアへ派遣した。

【派遣期間中の主な活動】

- ホームステイ（ペナン島 3泊 8月16日(土)～18日(月)）
- 現地校（Chung Ling Private High School）への訪問、交流
- ダト・スリ・アザリナ・オスマン・サイード マレーシア首相府大臣（法務・制度改革担当）と会食
- ASEAN LAW FORUM 2025見学

2 事業の英語名称「Itabashi Junior Ambassador Program」について

大使を意味するアンバサダーの言葉のとおり、派遣生徒一人ひとりが板橋区の代表として、板橋区立熱帯環境植物館との間で「友好提携に関する共同声明」を結んでいるペナン植物園や、多様な文化の交差点として発展したペナン島への訪問等を通じて、板橋区の国際交流を進展させていきたいとの思いから名付けた。

3 派遣先

マレーシア（ペナン州、クアラルンプール）

4 応募状況

応募者総数：87名

派遣生徒数：22名（倍率 3.95倍）

※ 派遣生徒の学年・男女の内訳

第1学年	2名	女子	16名
第2学年	6名	男子	6名
第3学年	14名		

5 現地スケジュール

日程	時間	交通	行程
8月15日 (金)	6:35 11:25 17:55	専用バス JL723	板橋区役所集合・出発、成田国際空港へ 成田国際空港を出発 クアラルンプール国際空港到着 クアラルンプール市内にて夕食後、ホテルへ ＜クアラルンプール：ホテル泊＞
8月16日 (土)	9:00 14:05 15:05	専用バス MH1148 専用バス	市場見学 ホテル出発 Masjid Putra 拝観 クアラルンプール国際空港発 ペナン国際空港着 現地校でホストファミリーと対面、各家庭へ ＜ペナン島：ホームステイ＞
8月17日 (日)	終日		ホストファミリーと過ごす ＜ペナン島：ホームステイ＞
8月18日 (月)	終日		現地校（Chung Ling Private High School）訪問・交流 ＜ペナン島：ホームステイ＞
8月19日 (火)	終日		現地校（Chung Ling Private High School）訪問・交流 ＜ペナン島：ホテル泊＞
8月20日 (水)	4:00 5:50 6:50 11:00 12:00 22:50	MH1137 専用バス JL724	ホテル出発 ペナン国際空港発 クアラルンプール国際空港着 マレーシア首相府大臣（法務・制度改革担当）会食 ASEAN LAW FORUM 2025（Promotion of International Commercial Arbitration across ASEAN and Japan: Challenges and Opportunities (in collaboration with MoJJ)）見学 クアラルンプール国際空港発 ＜機内泊＞
8月21日 (木)	7:00 10:05		成田国際空港到着 板橋区役所到着後、到着式、解散

6 派遣の成果

- 派遣生徒にアンケートをとったところ、海外派遣事業への参加による自身の変化について「海外への興味・関心が高まった」20名、「英語のコミュニケーション力を高めたい」18名、「日本のことをもっと海外の人に知ってもらいたい」13名等と、全て肯定的な回答が得られた。アクティビティについてはホームステイ及び学校交流に対する満足度が高く、主体的にコミュニケーションを図ることや多文化を尊重することの大切さを振り返る生徒が多かった。また、他校の生徒と一から関係を築き海外での新しい挑戦を多くやり遂げたことで、派遣生徒間に強い仲間意識が芽生えたようである。
- 効果測定（J's GROW 教育活動効果測定システム）の結果からは、「寛容性」及び「課題設定」についての意識変化が高く、これらの意識変容実感度に最も影響を与えたアクティビティは「現地校訪問・交流」、次いで「現地ホームステイ」であった。また、意識変容の結果、行動の変化としては「柔軟性」が自己評価及び他者評価ともに最も高かった。自他共に、臨機応変に物事を考えながら行動できるようになったと感じていることが推測される。